

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ 藤田 シュイチ 主 一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動である。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全人的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたる。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとすることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 教育評価にはさまざまな観点が含まれている。教育評価の意義を学び、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教育評価の意義、歴史、今日的課題、目標・評価について説明できる。 ②診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明できる。 ③心理検査の目的、役割、妥当性、信頼性について説明できる。 ④具体的な心理検査の実施方法、処理、解釈について分析・評価できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本教材 1 および 2 を熟読するが、基本教材では理解できない項目や専門用語の知識、さらに知識を増やしたい心理検査の具体例については図書館等で参考図書を読覧する。 ②インターネットの文献検索システムを利用して、関係する著書・論文等を確認する。 ③manaba folio の機能を利用して、担当教員と受講生との間でディスカッションおよびレポート添削を行う。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本教材および参考図書等を熟読する。 ②レポート課題の内容を分析する。 ③レポートを作成する。 <p>レポート課題 1 本につき、教材の学修 (20 時間)、レポートの執筆 (10 時間)、レポートの推敲と最終稿の完成および担当教員との添削指導 (15 時間)、完成までに必要な時間は 45 時間を目安にしてください。</p>		
スケジュール	<p>基本教材 1 のレポート課題 (1) (2) の最終稿の提出は前期の学事歴で定められた日まで、基本教材 2 のレポート課題 (1) (2) の最終稿の提出は後期の学事歴で定められた日までを提出期限とする。各々のレポートにおいて、初稿は最終稿提出日の少なくとも 1 ヶ月前までには提出すること。内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘するので、期日までに加筆修正したレポートを再提出してください。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	100%	レポート課題 (1) (2) のそれぞれを 100 点満点で点数化し、その平均をもって最終評価とする。もちろん、提出されなかったレポート課題は 0 点となる。
	観察記録	%	
履修者への要望	<p>参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げた。基本教材は読みやすい文章になっているが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には、参考図書を併読することを薦める。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 梶田叡一 教材名： 『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣双書，2010年） ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税
	本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実際」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。
参考図書	田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房，2010年） ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税 梶田叡一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂，2010年） ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税 梶田叡一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版，2007年） ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税 森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語300の基礎知識』（明治図書，2000年） ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税 東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年） ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税
履修上のポイント	教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものである。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的に、数量的にとらえることをめざしてきた。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にする。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。
レポート課題 1	基本教材1の序章～第4章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点 ：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題 2	基本教材1の第5章～終章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点 ：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 花沢成一・佐藤誠・大村政男 教材名： 心理検査の理論と実際（第IV版）（駿河台出版社，1999年） ISBN：978-4411003218 2,800円+税
	本書は、教育評価法の実践的内容を含んだ心理検査法について、広範な領域にわたり論述している概説書であり、二部（「理論編」「解説編」）から構成されている。第一部の「理論編」は、I「心理検査の定義と機能」、II「心理検査の発達史」、III「心理検査の使用と作成の問題」、IV「心理検査の採点の問題」、V「心理検査の信頼性と妥当性」。第二部の「解説編」は、I「集団式知能検査」、II「個別式知能検査」、III「精神発達検査」、IV「特殊性能検査」、V「興味・態度検査」、VI「質問紙法性格検査」、VII「作業検査性格検査」、VIII「投影法性格検査」、IX「学力検査」。
参考図書	上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店，2001年） ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税 沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎：第2版』（ナカナニヤ出版，2020年） ISBN:978-4-77-9514920 2,100円+税 松原達哉（編）『臨床心理アセスメント（改訂版）』（丸善出版，2013年） ISBN:978-4-621-08648-3 2,730円（税込） 村上宣寛・村上千恵子（著）『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』（北大路書房，2008年） ISBN:978-4762826252 2,700円（税込）
履修上のポイント	最適な評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事である。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられる。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係で決まる。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければならない。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。
レポート課題 1	基本教材1の第一部「理論編」のI～Vまでの全章を熟読し、その内容を2,000～3,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点 ：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題 2	基本教材2のうち、第二部「解説編」で紹介している、①知能検査、②発達検査、③性格検査、④興味・態度検査、⑤学力検査の中から、4つの検査を任意（自由）に取り上げ、その内容（目的、実施方法、結果の見方、解釈など）を説明・要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点 ：基本教材は必要最低限の内容を説明しているのので、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分である。参考図書を利用して調べ、豊かな文章にしてください。

基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 1 の「教育評価の意義」、「教育評価の歩みと今日的課題」を学修する。
第 3 回	基本教材 1 の「教育活動と目標・評価」、「形成的な評価」を学修する。
第 4 回	基本教材 1 の「到達基準に準拠した測定・評価」、「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」を学修する。
第 5 回	基本教材 1 の「学校による評価の実際」、「評価の心理的影響」を学修する。
第 6 回	基本教材 1 の「授業・教師・学校の評価」、「わが国における教育評価の展開」を学修する。
第 7 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の定義と機能」、「心理検査の発達史」を学修する。
第 3 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の使用と作成の問題」、「心理検査の採点の問題」、「心理検査の信頼性と妥当性」を学修する。
第 4 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 5 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 6 回	基本教材 2 の解説編の中で、「特殊性能検査」、「興味・態度検査」、「質問紙法性格検査」を学修する。
第 7 回	基本教材 2 の解説編の中で、「作業検査法性格検査」、「投影法性格検査」、「学力検査」を学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。